

沼田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン【概要版】

沼田市人口ビジョンとは？

人口ビジョンは、本市における人口の現状を分析し、人口に関する市民の認識を共有することを目指すとともに、今後、本市が取り組むべき人口の将来の方向性と将来の展望を提示するものです。
対象期間は、平成 27（2015）年度から平成 72（2060）年度までの 45 年間です。

「沼田市の人口減少に関する課題」

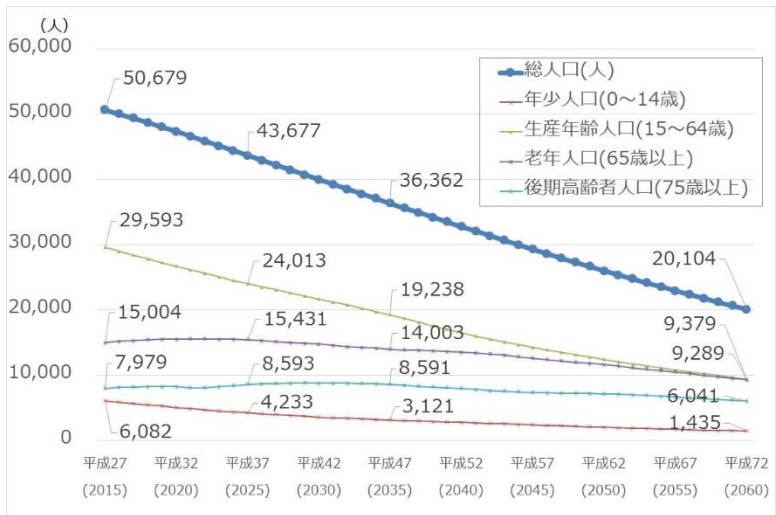
■現在の傾向では大幅な人口減が危惧されます

H27（現在）：50,679 人

➡10 年後（2025）43,677 人
（約 14%減）

➡20 年後（2035）36,362 人
（約 28%減）

➡45 年後（2060）20,104 人
（約 60%減）

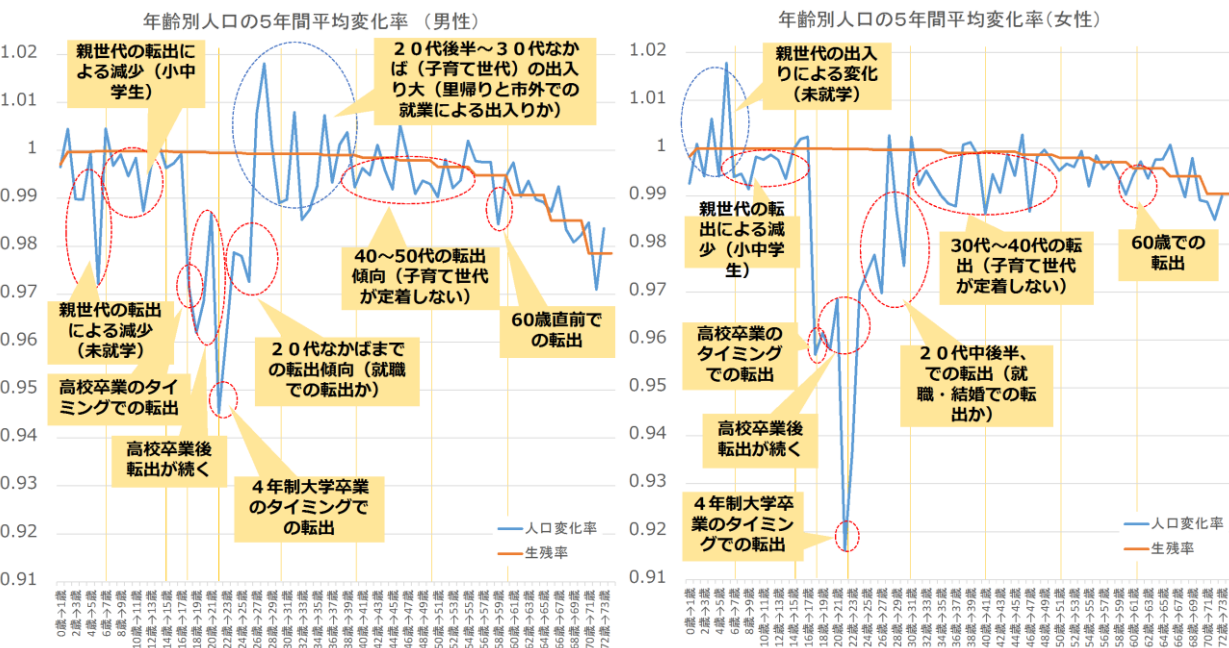


■超高齢社会へ

○平成 52 年（2040 年）には
老年人口が約 42%と超高齢社会

■20～30 代人口の維持、特に女性の転出超過抑制が課題

○特に高校・大学卒業のタイミングでの転出、子育て世代の転出、さらに女性については 10 代後半から 40 代までの転出傾向



「目指すべき将来の方向性」

人口対策の視点

①安定した雇用の創出によつて、若年層・子育て世代の転出を抑制する。

②子育て後世代からのU I ターンの促進により新しい人の流れをつくる。

③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえ、転出抑制・出生数の増加を促す。

④地域と地域が連携し、市内の各地域特性に応じた人口対策を行う。

目指すべき人口の展望

若年層、特に結婚・出産・子育て世代として人口減少抑制の鍵を握る 20～30 代の転出抑制を図る。

市外の生活を体験して、また経験を活かして、本市に戻って暮らしたい人を増し、U I ターンを促進する。

若年層の転出抑制を人口の自然増加（出生数の増加）につなげる

地区の環境に応じた、各年齢層等ターゲットを設定した人口の定着・促進を図る。

施策の方向性

○住宅の供給や、子育て環境、教育環境の整備
○新産業の創出、地域企業の雇用拡大、他市への通勤者の転出抑制、転入促進

○特に子ども世代が独立する年齢層、準市民への良好な住宅環境の確保・提供

○産婦人科や小児科の確保、出産・子育てへの経済的支援、女性が働きやすい雇用環境づくり

○沼田地区での若者世代および安全な生活を求める高齢者層の定着・促進
○利南、白沢地区での若者世代定着
○郊外部でのU I ターン者の増加

「沼田市の人口の長期的展望」

平成 52（2040）年に人口規模 40,000 人、平成 72（2060）年に 34,000 人、及び、将来においても持続可能な人口構造の構築を図る。

「基本的視点とその目標値」

現状推計（20,104 人）と比較して 13,800 人程度の増加を見込む。

視点 1 若年層・子育て世代の転出抑制

2040 年に若年層の人口の社会減少が解消される（0%になる）ことを目指す。

視点 2 合計特殊出生率の上昇

平成 42（2030）年に 1.8、平成 52（2040）年に人口置換水準 2.07）、その後は 2.07 の維持を図る。

視点 3 子育て後世代のU I ターンの促進

5 年後には 50 代以上の世代の 50～70 歳世代の社会減少が解消される（0%になる）ことを目指す。



沼田市まち・ひと・しごと創生総合戦略【概要版】

沼田市まち・ひと・しごと創生総合戦略とは？

本市は、市民憲章にうたわれている“平和を守り、人間性ゆたかなまちづくり”と、森林文化都市宣言による“人と自然が真にふれあう理想のまち”の実現とその継承を基本理念として、まちづくりを進めています。その基本理念の継承を基本としつつ、総合戦略は、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本的な考え方等を基に、本市における人口減少と地域経済縮小の克服、まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立を目指すため、今後5か年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめたものです。

対象期間は、平成27（2015）年度から平成31（2019）年度までの5年間です。

「まち・ひと・しごと創生に向けた今後の方向」

人口ビジョンにおける「目指すべき将来の方向性に基づいた今後の方向」

- 1 子育て環境及び雇用環境の整備 2 移住しやすい環境の整備 3 市内各地域の特性を生かした環境の整備

目標1 「安定した雇用を創出する」

【若年層を主なターゲットとした雇用の創出を図る】

●数値目標
起業数：創業・第二創業等
→5件（H31年度）

目標2 「新しい人の流れをつくる」

【若年及び壮年・高齢市外在住者をターゲットに人口流入を図る】

●数値目標
転出入者数
→転入者25人増、転出者25人減（H31年度）

目標3 「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」

【子育て世代をターゲットに環境整備を図る】

●数値目標
合計特殊出生率
→1.8人（H31年度）

目標4 「時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する」

【子育て世代及び壮年・高齢市外在住者をターゲットに環境整備を図る】

●数値目標
中心市街地歩行者通行量増加
→10%増

「基本的方向」

- 安定した雇用の創出により、特に若者層・子育て層の定着を図る。
- 地域資源を生かした新産業の創出と地域企業の雇用拡大
- 出産・育児をしやすい職場環境への改善

施策1-1 地域産業の競争力強化

・農産物ブランド化・6次産業化推進 など

施策1-2 新産業の創出

・創業支援 など

施策1-3 人材育成・雇用マッチングの推進

・建設業等における技術者育成支援 など

施策1-4 ワーク・ライフ・バランスの実現

・職場での出産・子育て理解醸成

「基本的方向」

- 観光振興による交流人口増加
- 観光産業活性化による、他産業（農業や林業、商業等）への波及
- 観光まちづくりによる地域プライド醸成
- 移住交流受入れ体制充実による、子育て後世代、準市民の転入促進

施策2-1 観光交流の促進

・観光受入れ窓口体制の強化（情報一元化等）
・観光まちづくりの推進（地域プライド醸成等） など

施策2-2 転入・移住の促進

・空き家等活用による住宅情報提供
・空き家等改修による、魅力ある住宅環境の整備（お試し住宅実施） など

「基本的方向」

- 安心して結婚できるよう安定した雇用を創出し、子どもを産み、育てられる環境づくりを推進
- 教育の充実により子育て世代の転出抑制、転入促進を図る。

施策3-1 妊娠・出産・子育てにかかる環境充実

・結婚支援
・子育て世代包括支援センター整備 など

施策3-2 教育環境の充実

・幼・小中高校教育における体験型地域学習カリキュラムの充実

「基本的方向」

- 中心市街地の都市機能の維持充実
- 市内各地域の都市機能適正配置
- 住宅ストックを活用した移住推進、市内転居しやすい環境づくり

施策4-1 中心市街地の再生

・グリーンベル21の活用 など

施策4-2 既存ストックマネジメント強化

・空き家活用による移住促進 など

施策4-3 各地域の特性に応じた機能・サービス

・地域防災体制の構築 など

「総合戦略の実施に向けて」

住民をはじめ産業界、教育団体、金融機関、労働団体等で構成する『沼田市市民構想会議』において、総合戦略策定後の変更、事業効果の検証（数値目標の確認）等を行います。